



三中校長だより 保護者地域の皆さんへ  
令和7年度 第5号 R7.7.10 (木)

藤井寺市立第三中学校  
校長 奥 雅美

## 「ONE PIECE」

6月4日・5日の1年生宿泊学習、8日～10日の3年生修学旅行、12日の2年生万博見学、そして7月2日の1年生万博見学(3年生万博は10月3日)と、大きな行事が続きました。これらの行事を終え、各学年ともにクラスや学年の集団としての力が一段と高まったように感じています。

集団の力を高めるには、まず一人ひとりが自身の良さや課題をしっかりと認識することが大切です。人の個性は、共に時間を過ごし、何かに取り組む経験を積むことで見えてきます。まさに、日々の学校生活や行事を通して、生徒たちは一つひとつ情報をインプットしているのです。関わりが少ないと、物事の見方が一面的になり、偏った評価をしてしまいがちです。だからこそ、たくさん見て、話して、聞く機会を増やすことが重要です。たとえ好ましくない場面に遭遇したとしても、そこから目をそらさずに深く観察することで、本質が見えてくることもあります。これにはある程度の時間が必要です。

個性はあるでジグソーパズルのピースのようです。でこぼことしたピースをはめ込み、どこまで一つに繋げられるか。誰かに繋いでもらうのではなく、自分から繋がりに行くために、知恵を絞る必要があります。どんなに個性的な形をしたピースでも、いくつか合わせればうまく全体が広がっていくでしょう

生徒たちが、そして先生たちが、まさにアニメ「ONE PIECE」のように一つになることを願っています。

## 「完璧でなくいい」

私自身の話をさせてください。共働きで二人の子どもを育ててきました。多くの方に支えられ、助けてもらひながら、がむしゃらに駆け抜けてきた日々だったと思います。保育園のお迎えはいつも最後で、同じような状況の保護者の方々とは自然と打ち解けました。私自身の仕事の都合で子どもの学校行事と重なってしまうこともあります。やむを得ず仕事を優先したこともありました。その分、家事では手を抜かず、子どもに寂しい思いをさせないよう、懸命に努力してきたつもりです。常に「完璧な母親」であろうとしていました。だからこそ、子どもにもその期待に応えてほしいという思いが芽生え、結果として身勝手な期待を押し付けてしまったかもしれません。

たくさんの保護者の方々と話し、親のあり方を深く考え、プロとして多くの方々を支える立場なのに、我が子に対しては誤った接し方をしてしまっていたと、今になって痛感します。子どもたちが自立した今、改めて振り返ってみると、あれだけ周りの人助けもらっていた時点で、「完璧」などではなかったのです。そして、この私の生き方を、子どもたちに真似させたいと思いません。

もし、大人である私自身が不完全であることをもっと早く認識できていたら、さらに未熟である子どもたちを、もっとおおらかに、ありのままに受け入れられたのではないかと感じています。

親は「完璧」でなくいいと思います。親のコピーにならないように、自分の親とは考えの違う多くの大人と出会い、素敵な部分を見つけ、自分のものにできれば、子どもは健全に育ちます。きっと不完全な大人たちから多くのものを学んでくれるでしょう。子どもには、出会いのチャンスをたくさん作ってあげられるといいですね。